

学校図書館での生徒指導の方法としての スター・ペアレンティング

大阪府男女共同参画推進財団事業コーディネイター
田上 時子

STAR PARENTING

「スター・ペアレンティング」を始めたのは、子供の指導に使えると思ったから。

親を楽しむ五つのスキルというものがある。「親学」「親学習」「親教育」とも呼ばれる。

子供の問題に関していえば、虐待がある。虐待の多くは黙として行われている。そんな中、虐待しなくてよい親のあり方を説明するのを感じた。児童虐待防止法というものもあるが、親に対する「治療」が必要。カウンセリングと同時に親のあり方のスキルを教える。

ペアレンティングとは、親のあり方、役割を示す。親のあり方が数ある中で、どうして「スター・ペアレンティング」を紹介するのか。生活指導に使えることが上げられる。

いじめというものは、いじめる子、いじめを傍観する子が悪いという意識が高くなっている。しかし、少し前まではいじめられる側にも何かの非があると考えられていた。協調性がない、嘘をつくなど。しかし、暴力を受けることを正当化すれば、戦争がよいということになる。どんな理由であっても暴力は起こす側が悪い。

そういった被害者の支援活動で、社会の意識も変わってきた。学校に行かなくてよい、不登校を認めよう、カウンセリングの必要性など。

教育再生会議の中でも、いじめに関しては厳罰主義がとられている。しかし、罰を与えて人は善くなるか。いじめる側、それを傍観する子に困っているが、どのように指導してよいか分からない。

いじめられる側の支援は分かってきた。しかし、いじめる側をどうすればいいのか。罰を与えればなくなるものでもない。

いじめを起こすのはスキル不足からだ。先進国ではソーシャル・スキルという。「社会的な力」という意味だ。本来は親が子供に提供すべきものだ。

スキルとは、本を読めば読むほど力がつくのと同様、力を得るにも段階が必要。その意味で「スター・ペアレンティング」の中心は幼児期にあると言える。高校生ともなるといろいろなスキルがあるが、段階ごとのスキルを持たずに進学してくる子が多い。幼児期、

就学期に育てられなくてはならなかったものを持っていない。

全ての子供が成長段階に見合った育てられ方をしたとは限らない。ここまでのスキルがないのに、次のスキルは与えられない。段階が必要だ。

いじめはスキル不足から発生する。100回言ってもなくなるどころか、言うほどにいじめは強調される。子供はいじめようとしていじているのではない。いろんな背景の結果として、大人がいじめと名付けているだけ。

いじめをなくせる環境。スキルを持った個々人を育てましょうということを、「エンパワメント」という言葉を使って表す。

教育にエンパワメントは重要。「内なる力」という意味だから。「スター・ペアレンティング」が親のあり方を説く中で、エンパワメントは親にとって子供にとっても力を引き上げてくれる。逆に言うと、知らない人に付いて行かない、一人にならない、変質者に気をつけなさいなどと言われただけでは、力は感じない。

カナダで学んだことだが、言語学的に否定語は絵にならない。言語学的に80%の人は否定語は否定そのものにならない。否定語は絵にならないからだ。教育論からすると、否定語を使う教育効果は20%だと思っている。

「廊下を走っては、いけません」というように、「走る」ことが先に来ていると「走る」姿だけを描いてしまう。大人は辻褄を合わせられるが子供には無理だ。

エンパワメント……内なる力を引き出す。つまり出来ることをしようということ。「～に気をつけなさい」と言っても無理がある。

「あなたに力がない、力がない、力がない」と言い続けることは、逆に加害者への動機付けを助長しないか。力関係の乱用であるのに、力のない側に力がないのだということは、力の乱用をもっとしてもよいということになる。「～ができない」ではなく、「～ができるか」を教える。

「スター・ペアレンティング」とは、子供や親、或いは親代わりになる先生に「あなたにはできることがある」ということを伝えるためのスキルだ。

引きこもり現象というものがある。6ヶ月以上、家から出ない、親以外の人とコミュニケーションをとらない、夜の徘徊はするがそれ以外は外出しないという現象。世界中で日本だけの問題。ものすごく数が多く、51%が小学生から大学生。49%が30～40代。そのうち7%は10年以上と長期化している。推定で200万人いる。

50代にはいない。なぜなら、50代の子供の頃原風景は今と全く違う。原風景の中に引きこもりの習慣がない。引きこもる場所（自室）がなかった。引きこもりが可能ということはそれだけ社会が豊かだということだ。誰かが食べさせてくれるから飢えることがない。男の子に多いのも特徴だ。引きこもりは母親と息子との関係ともいえる。

スキルにジェンダーはない。父から息子、母から娘でないと思いが伝わらないということはない。親のスキルは男子にも女子にも同じもの。

母親はどこまで行っても息子の役割モデルにはならない。息子が「こんな母親になりたい」と像を描くことは難しいからだ。

引きこもりを解決する方法の一つとして「こんな子供に誰がした」ということがある。子供の問題は親の問題だからだ。「こんな子供に」したのは親の問題だが、親だけを責めても仕方がない。親には「こんな親に誰がした」という社会問題がある。いまや引きこもり世代が親になっているからだ。

「スター・ペアレンティング」でいう親のあり方。それは親にはスキルが必要ということ。純朴で素朴な子育てでは許されない現代社会だからこそ、親は困っている。

今ほど育児が難しい時代はない。その理由は二つ。

一つは子供の環境が激変している。インターネットが、携帯電話がという時代を誰が予想したか。それに対する新しいスキルが必要になってくる。

もう一つは、子供は生まれて何もしなければ、狼少年や狼少女になってしまう。誰かの手にかからなければならない。それは親でなくてもよい。だが、育てる誰かが必要。しかし、その親世代が、いまや予行演習もなしに親になっている。モンスターとまでは言わないが、親は変わったと思う。

親個々人ではなく、親を育てた時代が生まれたときから豊かでものが溢れていたからだ。子供を取り巻く時代が激変している。親が、親としての予行演習なしに核家族や地域や共同体のない中で、スキルを持てなかった世代が親になっている。

親だけでなく親以外の人と一緒にスキルを持って育てましょうということを、「育児の社会化」という。子供の環境がこれだけ変わると、親だけでは子育てができない。

子育ての責任は親にある。しかし、親だけで子育てしなさいというから少子化が進み、いろんな事件が起こる。親としてのスキルとは、子供が育っていく中で社会に自立していくには何が必要かというスキルを提供していくこと。それが親としての役割。昔は躰や家庭教育、社会教育と言われたかもしれない。

学校の先生には、育児の社会化を呼びかけている。つまり、スキル不足で学校に来ている子供が多いからだ。その中で子供たちに必要なスキルを提供していきたい。子供が育つ上で必要なものを、私たちがどのようにエンパワメントして力を付けていくか。

いろいろと応用できる。人間関係、特に人を育てるのに使える。人の育ち方は物理的な年齢とは違う。心の成長度は年齢とは違うもの。

ペアレンティングとは大人としてのスキルと思って欲しい。子供を育てる側のスキル。知っていただきたいのは、ペアレンティングでは、親子の関係を子供に焦点を当てて考え

るか親側から見るかということ。例えば虐待が起きる場合、怒る私がいる……つまり私の問題。虐待は子供の問題ではなく、感情の発散に子供を乱用している親の問題。親が変わらなければならない。

親ほど難しい仕事はない。そのようなときに、「育児はあなたの役割で子育てはあなたの責任だ」と言われると大きなプレッシャーになる。そうすると親は何とかして子供を変えようとしてしまう。土台無理なのに何とか完璧な親になろうとしてしまう。親としてどうあるべきか、というところに焦点を置くことが親としてのスキル。子供を何とかしようとするスキルではない。子供が必要なものを親はどのようなスキルを持って提供するのか。

これは問題を持った子供を何とかして変えることにも使えると思うが、私が子供を指導するに当たってどのようなスキルを持っていればいろんなものが見えるか、ということを考えていただきたい。

それともう一つはエンパワメント。いじめを例に出したように、100回言ってもいじめはなくなる。それよりも、いじめなくても済むスキル、いじめる環境のないスキルが大切。

問題解決の4段階

問題解決の4段階として、親と子の問題は親側に、生徒と大人の問題は大人側に、の発想で、関係をどう構築するかというスキル。

なぜ「スター・ペアレンティング」と名付けたかということ、特に翻訳しないでそのままにしたから。「スター」というのに意味がある。「ペアレント」はいろんな訳し方がある。

子供たちがじっくり本を読むこと、ものを考えることがなぜ必要か、というと、問題があったらその段階を踏まえ、しっかり考え、情報を集めているんな考えを持ち、その中で何か一つアクションを起こして成功したかしなかったかを見、また修正するということを学ぶことではないか。

余りにも簡単に言ったが、もっと言えばあらゆる種類の問題が起きたときに、その解決方法は必ずあるということ。仏教では因果関係といった。

問題が起こると向き合うことすらやめてしまうことが多い。そんな中、読書をすればいろんな意味やヒントを受ける。読めば読むほどに力が付く。レベルも上がる。

スターというのは問題解決の段階をいう。問題解決はできる。だけど、段階を踏まなければならない。

段階は、まず「S」。「Stop」。スターとは英語では星の意味だが、肯定的な意味がある。伸びていく、成長していく、星のように輝くという意味。生徒に星の形のシールなどを与

えている。そして問題解決に四つの段階があるから「STAR」で覚えようと言う。

「S」Stop and focus。問題があったときには、その本質は何なのかを考える。焦点を定める。いじめがあったとしたら、そのいじめの問題は何なのか。

三つの段階を考える。一つはあなた自身にとって何なのかということ。例えば人間関係に悩んでいるとする。ある人が余り好きではないとして、その人は私にとって何なのかを考えてみる。

二つ目は問題点。何がその背景にあるのか。人間関係でいうと会いたくないのに会ってしまう原因。

三つ目は相手に何を望むのか。つまり、目標があって初めて何を具体的にするかという計画が立つことになる。

例えば苦手な人に、私の問題とその内容は何か、加えて相手にどうして欲しいのかを整理しておく、後のプランが出やすくなる。

「T」Think of ideas。何が出来るか。出来ると思うことを沢山考えようということ。とにかく 15 以上の方法を考える。実現の可否は置いておき、時間はかかるかもしれないがとにかく沢山考える。1日のうちにしなくてもよい。

「A」Act effectively。沢山考えたの中から効果的なものをとにかく実行してみる。変えたいと思う事柄を行動してみる。

「R」Review,revise,reward。もしも「Action」が成らなかったら、思うように行かなかったら、再検討し修正してみる。それでうまくいけば自分を褒める。褒美を与える。褒美といっても、ものを与えるのではない。子供に自分に褒美を与えるなら何が欲しいかを書かせると、親に買ってもらうとは書かない。自分の小遣いで買うことを考える。

つまり問題があったときに解決する方法があるということを伝える。アイデアが浮かばなければ誰かに聞く、本を読む、ネットで探すなど情報収集をする。これが「Star」の段階。

親を楽しむ五つのスキル。実際は 15 ある。一つは問題を避けるというスキル。子供と親との間の問題を避けるという意味ではなく、避けられる問題があるということ。なぜ私はイライラするのか。それを人に向けるものではない。

「感情日記」を書いてみるとよい。どのような状況で、誰に対して、どのような怒りを感じたか。そしてどう対処したかを 1 週間書くと、かなり楽になる。問題が見えてくる。夢分析のようなものだが、その中では感情のパターンが決まっている。どんな時間、誰に。

決まっているということは変えられるということ。もし忙しいことが原因であれば、それを変えればよい。

問題を避けるスキルには三つある。

一つは、問題があった場合の状況を変える。疲れたときには和らげることをする。子供にトラブルがあったときに、見てやる必要があるのはストレス。親だけではなく子供にもストレスはある。人間はストレスに弱い。子供のストレスを減らすことが問題を解決するためのスキルになる。

そして代案を出す。食事中にテレビを見て散らかす子供の場合、テレビを止めるか食事の時間をずらすかを考える。何ができるのかという代案を出すことで問題を避ける。

二つ目は「よい行動」を見つけ出す。子供のよいところを見つけて褒めてやればよい。

子育てにとって何が重要か。ある診療内科医は自尊感情であるという。人間の土台になるものだ。子供は突き詰めると自尊感情が低い。幼児期に自尊感情がどう育つか。高校生や大人にも低い人がいる。スキルにとって自尊感情は生物学的な年齢ではない。しかし、人間の土台である。これが大きいか小さいかで躰や教育がぐっと変わる。自尊感情はいつからでも育てられるので、低い子は育てて欲しい。

どやしたり怒ったり叩いたりしても自尊感情は絶対育たない。自尊感情が育つときというのは、私が私でよかったな、と思うとき。それは具体的には褒められたとき。褒め方は「あなたいい子ね」ではだめ。高校生には通じるかもしれないが、3歳の子には何のことが分からない。「～だからいい子ね」と言ってやればぐっと分かる。

「注目」という概念。子供は育つ上でここがしっかりあると楽になる。Actionとして「注目」されたいという願望が高校生になっても大きいということは、そういう度合いがなかった子だろう。幼児は注目があって初めて生きられる。

子育てするときの三つの関係。

一つは子ども自身が持つ気質を知る。持って生まれた気質は生涯変わらない。子供に接するとき大切なこと。二つ目は子供の成長段階を知ること。子供がどの段階にあるかを考える。三つ目は価値観。親、学校、社会の価値観が子育てに大きく関係してくる。自由に生きろと言う親、勉強第一と言う親。

「注目」でいうと、ある生徒は嘘をつきで困るとする。嘘をつくということで注目されると思うからだ。その子供が注目が必要な時期だとすると、その子は注目を集めるためにもっと嘘をついてしまうことになる。

いじめはだめだと100回言うことは、いじめを注目させるようなもの。同様に嘘をつくことで注目されることに気づくと、嘘をつくことになる。

私に嘘つきは困るという価値観があるとすると、その子が嘘をついているときは無視し、本当のことを言ったときに注目してきちんと褒めてやる。これが、子供が自分の価値観を育てることになる。

悪いところを見つけて叱るのではなく、よいところを見つけて褒めてやる。そのとき覚

えておいて欲しい重要なことは、まず注目すること。そして絶対に他人と比べないこと。その子のレベルに合わせて褒めることが大事。エンパワメントにはどこまで器量を広く持ってみることができるか、がある。

褒美は先に与えない。先に与えると約束を守らないし、より多くのものを要求してくる。賄賂と同じ。約束を守った結果に対して褒美を与える。

「感情」を認めることも大人にとって重要なスキル。それは話を聞いて欲しいということ。

暴力を振るう人にはパターンがある。一つは自分が何をしているか分からなかった。もう一つは衝動的に。

感情には性格がある。段階があるが、日本語にはそれを示す言葉がない。イライラしてムカついて、キレる。跳躍している。もっと感情用語が豊かであればと思う。英語では感情の段階がはっきりしている。だから、衝動的で冷静になれないときでも、それは次第に段階を経て収まって行くことを知っている。日本の子供はそれすら教えられていない。

感情の段階を示す言葉がないというが、感情を覚えたとき、つまり泣き、笑ったときには誰かが言葉をかけてくれていた。その中で言葉を覚えてきた。本には感情を表す用語が沢山ある。

感情を表す体験を持っているだけ声をかければ、子供の喜びは増える。(ワークショップをして) 否定語が多く思い浮かぶのは、親は子供が否定的な考えのときほど声をかけていたから。泣いてはだめ、辛がってはだめ、など。

親も子も両方とも感情の言葉を増やす必要がある。

否定語も段階に応じて知っていれば、そのときの自分の感情に合わせた用語を選べることになる。選ぶことで感情に段階があることを知ることが出来る。暴力は感情の爆発である。

親は子供に幸せを願うが、子供の幸せと親の幸せは違う。幸せは考えるものではなく、感じるものではないか。その子が幸せと感じてくれればよいのだが、親の側に幸せを感じる力があるかどうか。

親は幸せを感じる力を育てて欲しい。肯定語、否定語。沢山の喜びやわくわくを感じる言葉がある子は沢山の幸せを知っている。そういう体験に言葉が与えられて増える。幸せは感じることから、その力をつけて欲しい。

簡単な方法がある。それは子供の話を聞くということ。力関係のある中で、役割を間違えると力関係が逆転し、虐待になる。

親の役割は子供の話を聞くことだが、虐待は子供が親の感情を聞いてしまっている。子供が親の感情のはけ口になっている。

親が子供の感情のはけ口にならなければいけない。はけ口は、叩かれたり殴られたり耐えることではなく、感情を受け止めてやるということ。家でシッカリと自分の話を聞いてくれる親のいる子は、落ち着いている。

子供の話を聞くときのコツは、簡潔に聞く、積極的に聞く、そして幼児であれば空想で応じる。その子の話すことが重点。目線の高さを合わせる方がよい。

四つ目は、「限度」を設けるということ。規範意識、境界線、明確なルールは必要。ルールは肯定語で出来ることをイメージさせればよい。そして限度を超えてしまったときはシッカリと怒る。子供のとった行動の結果を引き受けること。罰を示す必要がある。ルール作りには子供を入れて行う。

新しいスキルを教える。最近、いじめで問題になっているのがインターネット上の書き込み。インターネットは子供用に作られていない。だから大人が新しいスキルを身につけて手本を示す必要がある。新しいスキルは、その時代、文化、国、年齢、成長段階によって異なる。5歳児のスキルを身につけていない中学生には、手本を示してみせる。そして具体的に教え、間違いがあれば正しくやり直させる。

スキルを横軸とすると縦軸に所属感をとる。所属感というのは、自分がそこに所属していることが満たされること。子供の使う言葉では「居場所」となる。所属欲が満たされているかどうかを確かめる。

境界線。スキルに限度を設けること。ここを超えてはいけない。自分の境界線を知っていると強い。同時に他人の境界線も知る。

自尊感情は人の土台になる。しかし、これだけでは境界線は育たない。そのための躰や教育が必要。自尊感情だけではいじめはなくなる。自分のことも他人のことも大事にする境界線が必要。

感情。大人は感情のガス抜きができる。「ストレスがたまったら、～する」のように。眠る前に本を読んで気持ちを静めるのも、ガス抜きのための儀式のようなもの。感情の対象を会得するのは難しい。

子供がガス抜きできる方法を絵にした『子どもの心をしずめる 24 の方法』という本がある。科学的に 24 の絵で表した。科学的にというのは目や耳の感覚に関係がある。子どもに読んで欲しいが、その後ろにいる大人にも手本を示す意味で読んで欲しい。

コントロール方法という難しいが、自分の気分を鎮める二通りの方法がある。どこでも誰でも出来るものとして深呼吸がある。鼻から吸って鼻から吐くのがよい。

日課として出来るものとして、感情は溜め込んでどこにも逃げていけないから、小出しにするのがストレスが溜まらなくてよい。男の子でも無口である必要はない。弱音をどんどんしゃべってよい。

今日一日の疲れと一緒に、感情も収めよう。

平成 19 年 (2007 年) 8 月 21 日 (火) 大阪府立女性総合センターにて

夏期研修会

講演 「図書館でもエコロジー」

(株)図書館流通センター 久保 和広

ご存知の方も多いと思いますが、福島県の矢祭町に「矢祭もったいない図書館」があります。この矢祭町は合併しない宣言等でも話題になったことがあります。図書館が欲しいとの住民の意向を受けて、既設の剣道場を改修築して図書館としたのですが図書を購入する予算が無いと、全国からの寄贈図書で図書館を立ち上げると宣言し、全国に寄贈を呼びかけました。さて、1年強で何冊の寄贈があったかと言うと...何と、43万冊以上の寄贈がありました。ついに、今年の7月にもう受け切れませんと宣言増設した書庫や閉架書庫・公民館・学校等々に寄贈図書を分散所蔵しても、約10万冊強が保管できないと推測されます。この受入・複本処理等々も全て町民のボランティアです。

さて、新築すると10億以上かかると、剣道場を改修した費用は1億2千万なのですが、寄贈が多すぎて、1億9千万をかけて書庫を急遽建設。無事に今年の1月から開館はしていますが、3月末の発表では登録者数750人強、来館は一日に平均70人、2ヶ月の貸出数4,500冊と発表されています。この数字をどう捉えるか皆さんのご判断にゆだねますが、本当の問題は別にあると思います。これで本当に図書館を作ったといえますか？ と 受入されなかった本の扱いの2点なんです。

まずは、「お金の無い自治体でも30万冊以上の図書館がオープン」と新聞等のマスコミでは成功例として報道されています。30万冊以上の蔵書は市立中央図書館レベルの蔵書数です。さて、図書館て何？ 図書館には収書と言う基本線があります。何を収書するのか、又はどこに目的をおいたコレクションをするのか？ 図書館はよく言われるように貸し小屋ではありません。キチンとした収書に対する一本の柱があって運用されている施設だと思います。蔵書構成やコレクションに対する意識もないまま、ただ受入された本が整然と並んでいるだけの施設が、はたして、図書館と言えるのでしょうか？ しかも、バックヤードとなる書庫と開架の間では、定期的に図書の入替をして今後は運営をするそうです。この

事を語ると個人的な意見が強くなるので本題に戻ります。書庫に納まった物も含めて、矢祭町では今度は逆に本が必要な自治体を求めています。単純に計算しても、もったいない図書館の収容冊数は約6万冊・増設書庫30万冊で計36万冊残りの7万冊余が公民館・小中学校に納まるとは思えません。と言う事は、受入されずに廃棄された本が大量にありそうと言うことです。（未発表ですが）これでは、不用品の単なる横移動です。

補記 講演後、実際に図書館を見た人と話をする機会がありました。「皆が騒ぐほど雑然としていないし、良い図書館だよ」との事。他のスタッフからは、「予算を90%削減して実質図書館無しの決議をしたY県S市よりはまし」この自治体はついに地元大学と連携して、大学図書館の一部市民開放を始めました。貴方の図書館でも同じことをしていませんか？文化祭でよく行われる「古本市」これは学校ばかりではありませんが…冊数は少ないですが、不用品の横移動と言えませんか？しかも、その本にフィルムコートがしてあったら、産業廃棄物として移動します。古本を買った・貰った人達たちがどのようにその本を廃棄するか、実は、そこまで皆さんには責任があると思います。

ここで、海外に目を向けてみると全面コートをしての本には見受けられません。透明なブックカバーのような物でくるんでいます。汚れてくれば交換をします。しかも、盗難防止のタトルテープが背の見える部分に堂々と貼ってあったり、話題のICも見返しや表紙の見えるところに貼ってあります。廃棄する時に、はがして捨てやすい工夫が装備の段階から考慮されていると言えます。

さて、図書館の本は産業廃棄物なのか？皆さんは、再生紙に不向きな紙の定義をご存知ですか？逆に言えば、リサイクルに不向きな物として各地で指定されている内容をご存知でしょうか？

先ず、良く廃棄される文庫本は「粘着質のノリ等がついた紙」はリサイクルできません。文庫やノベルスは背をノリで固めて製本されています。では、豪華本（写真集・文学全集等）はどうでしょうか？「金銀での箔押しがあるものや写真用紙（アート紙）が多いもの」もリサイクルはだめです。もちろん、布や皮が混在しているものもだめです。古い全集類は大体が布装丁です。図書館にありますか？古い事典・辞書類は何故か皮装丁の立派な物が多いのです。金属が混在している物もだめです。今でもホチキスのような物で綴じられた本があります。そして、皆さんが大事な本だと製本・修理した本には「粘着テープ等が貼られている」のでリサイクルできません。要するに、本はどう頑張っても再生紙にはなりません。では、どうやって処理すればエコに繋がるか「回答はたった一つです」

燃やさない事お手元の資料に「ブックエコ」のパンフが入っています。

お金はかかりますが、100%燃やしません。何故、ブックエコが生まれたのか？一つは、大量な産業廃棄物を流通させている業者の責任です。TRCは、年間約1,000万冊以上の図書にフィルムコートをして全国に納品しています。フィルムコートの素材は各社から様々な素材が使われて発売されていますが、全て超高温で燃やさなければダイオキシンを発生させてしまいます。（2千度以上とされています）昔は、カバーと中身を分けて捨てれば良いと言われた時代もありますが、もはや神話です。

補記 講演後の調査で分かった事全国の図書館（高校も含む）で年間で使用されるフィルムコートは約60tとのこと。某県立図書館でフィルムコートを貼らない時の修理本比率の調査が始まりました。では、ブックエコはどのように処理をされるかと言うと先ず、ダンボールは開けません。お客様から預った状態で処理機に投入されます。ここがウケテ、図書館以外に役所の収入役室や契約書類もブックエコに出されています。そして、全てを溶かしてしまいます。その後、分別されて様々な資源としてリサイクルに。一番多い紙類は、再生紙となりTRCが段ボールとして購入をしています。次に、金属等の不純物は、工場等で使用するパレットや、駅前等によく見かけるレンガ風の建材に混入され加工されます。学校からの配送料金と処理費を含み「1箱/680円」です。皆さんにお願いするのは、箱詰め梱包、そして積み込みがしやすい場所への移動だけです。箱の大きさの目安はこの程度になります。（本屋さんが納品に使っている大き目の箱です。）安いと感じるか高いと感じるかは、皆さんの環境に対する気持ちとイコールと思います。小さな予算で地球環境にやさしくなりましょう。どう捨てても環境にやさしくない本を移動させるだけの古本市はやめた方が良さそうです。

では、少しずつテーマからはなれますが古本市に変わって何をするか？正しいゴミの捨て方テスト。廃棄に対する本は結構ある筈です。では、クイズです。ペットボトルの正しい捨て方。

- 1 先ずは良く洗う
- 2 フタは不燃物。そして、フタを受けている部分も不燃物。
- 3 ラベルはリサイクルマークがあれば、資源ごみ。ラベルは切り取りましょう。
- 4 ペットボトル本体は潰してから、コンビニ・スーパーの回収ボックスへ
意
点
- 5 疲れた時に良く飲む栄養ドリンク。さて、これは資源ごみですか？

薬品類が入っていた物は、ビン・カン共に不燃物です。資源ごみにはなりません。 と

ころが、粉ミルクの罐はキレイに洗えば資源ごみになります。海苔の罐も同様です。

6 可燃ごみ、但し、大量な時は粗大ゴミ又は業者による廃棄

7 地区によって判断が分かれるもの。お酒の一升パック。

牛乳パックと同じ手順で開いて乾かせば資源ごみ、もちろん注ぎ口のプラ製品は外します。これが地区によって不燃物の扱いとなります。

このようなサンプルを中心に、文化祭等に図書委員会として参加してみてもどうでしょうか？何故リサイクルがテーマかの理由付けに、廃棄された本は産業廃棄物ではダメでしょうか？

さて、ここまでで図書館とエコについては終わりにします。図書館に並んでいる本は宝です。でも、どのように捨てても「地球にやさしくない」のです。やや、強引な結論ですが、後は皆さんの判断にお任せしたいと思います。少しコマースオンライン書店 b k 1 のご案内お手元のパンフをご覧ください。T R C が運営をしているオンライン書店 b k 1 です。通常のオンライン書店は、カードやコンビニ決済が一般的ですが、b k 1 は法人登録ができ公費や私費での請求書決済が行えます。さらに、送料は1,500円以上で無料となります。請求書はT R C 名義で作成されますので、公費での支払いもスムーズに行えます。大阪は配送の都合で中一日かかりますが、早い納品サービスをご提供できます。在庫は約60万件、赤本や文庫本も充実しています。高校でも良く買っているマンガも全巻揃います。バガボンド・「のだめ」等々です。在庫の確認は検索結果に、24h（これが自社在庫）・2～3日（取次在庫）と表示されます。これ以外にも、近刊本は予約することができます。逆に、流通していない本には「購入できません」と表示されるので無駄な発注を防げます。さらに、書評が充実しているのも b k 1 の特徴です。勿論、内容紹介文も充実しています。新刊案内や図書館からのお知らせに使う事は著作権にふれませんが、ネット上での公開や校外に掲示する事は著作権に触れますのでご注意ください。そして、全集や選集の一部には、内容一覧（内容細目）が表示されます。図書館で便利に使えるような機能としては、今日発売された本の一覧があります。ジャンルを指定して週間単位で見ることでもあります。このあたりが、ネット書店の強み。どんなに大きなリアル書店（実際に店舗を開いている書店）では、全て置けないし探せない。さて、繰返しですが1,500円以上で送料無料・公費で購入ができて、中一日で本が届く。年度末の予算調整ばかりでなく、日常的にご利用いただけるサービスです。本屋さんに頼んでも何時来るか分からない、こんな経験はありませんか？学校の帰りに大きな本屋で山積みなのに納品が遅い。良く見聞きする光景です。

是非、オンライン書店 b k 1 を一度試して見て下さい。もちろん、個人でのご利用もお待ちしています。 <http://www.bk1.co.jp/>

最後に、「N P O 図書館の学校」のご案内この団体一番の活動は、「図書館を使った 調べる学習賞コンクール」です。早いもので11回目ですが、このコンクールは、全国版以外に地区コンクールがあります。有名な千葉県の袖ヶ浦を始めとして9ヶ所で開催されています。小学校から公共図書館、さらにその利用者からの応募も多数あります。(前回は6,410件応募) 応募作品は手書からワープロでキチンと製本されたものまで、様々な形で全国から寄せられます。是非、皆さんの学校で行われている研究成果をまとめて応募して下さい。様々な活動をする「N P O 図書館の学校」には是非ご参加・ご援助をお願い致します。

<http://www.toshokan.or.jp/>